

予防接種を受けに行く前に

(1) 一般的注意

予防接種は、体調のよい時に受けるのが原則です。日ごろから保護者の方はお子さまの体質、体調など健康状態によく気を配ってください。そして何か気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけの医師や保健センターにご相談ください。

以下の注意を守って、安全に予防接種を受けられるよう保護者の方もご協力ください。

- ① 受ける予定の予防接種について、「東大阪市予防接種手帳」をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは接種を受ける前に質問しましょう。
- ② 受ける前日は入浴（又はシャワー）をし、体を清潔にしましょう。
- ③ 当日は朝からお子さまの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認してください。接種に行く予定をしても、体調が悪と思ったら、やめる勇気を持ちましょう。
- ④ 清潔な衣服をつけさせましょう。
- ⑤ 接種を受けるお子さまの日ごろの状態をよく知っている保護者の方が必ずついていきましょう。
- ⑥ 予診票はお子さまを診て接種をする医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。すこやか番号も忘れずご記入ください。
- ⑦ 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。

(2) 予防接種を受けることが出来ない人

- ① 明らかに発熱をしている人
一般的に、医療機関で測定した体温が 37.5℃以上の場合をさします。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
急性の病気で薬をのむ必要のあるような人は、その後の病気の変化もわかりませんので、その日は接種を受けないのが原則です。
- ③ その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシーをおこしたことが明らかな人
- ④ BCG接種においては予防接種、外傷などによるケロイドが認められる人
- ⑤ 病気が治ってから一定の間隔があいていない人（ただし、これらについては、医師と相談してください。医師が状況を確認し、接種できるかできないか判断します。）
 - ・麻しん（はしか）が治ってから4週間程度
 - ・風しん、おたふくかぜ、水痘（水ぼうそう）が治ってから2～4週間程度
 - ・その他のウイルス性疾患（突発性発疹、伝染性紅斑病、手足口病、感染性胃腸炎、インフルエンザ、ヘルパンギーナ、咽頭結膜炎など）が治ってから1～2週間程度

※なお、①から⑤に当てはまらなくても医師が接種不相当と判断したときは、予防接種を受けることはできません。

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

次の事項に該当すると思われる人は、必ず前もって主治医の診察を受け、その医師のところで予防接種を受けるか、主治医に母子健康手帳の予防接種のページにある意見記入欄に接種可能であることを記入してもらってから接種に行きましょう。

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育について治療や指導を受けている人
- ② 前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人
- ③ 今までにけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人
けいれん（ひきつけ）のおこった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後おこっているかなどで条件が異なります。必ずかかりつけの医師と事前によく相談しましょう。
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされた人及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる人
- ⑤ ワクチンに含まれる成分にアレルギーがあるといわれたことがある人
ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っています。
- ⑥ バイヤルのゴム栓に乾燥天然ゴム（ラテックス）が含まれている製剤を使用する際の、ラテックス過敏症のある人
- ⑦ 家族、友達またはクラスメートの間に麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）などの病気が流行している時で、まだその病気にかかったことのない人

(4) 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- ① 予防接種を受けたあと30分間は、お子さまの様子を観察し、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
急な副反応はこの間におこることがあります。
- ② 接種後、生ワクチンでは2～3週間、不活化ワクチンでは24時間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位は優しく洗ってください。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、はげしい運動はさげましょう。